

令和5年度 上田市立清明小学校 (総合評価)

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価									
「清く明るく 豊かな心で 進んで学ぶ 子どもの 育成」 ・心も体もたくましい 子ども ・自分や友だちを大切に できる子ども ・自ら学ぶ子ども		①自主:豊かなかわりやさまざまな体験を通して、自分で気づき、よく考えて自らたくましく行動できる子ども		どの年代においても、自分のことを中心に行動を決定する場面も見られたり、厳しい言葉がけをすることがあったりします。友だちの良い姿や憧れとなる姿を承認しながら、その時の思い(行動した側・受けた側)も大事に考え合うことで、自らの行動へつなげていきたい。その関わりが生まれる場面や体験を大事にしていきます。実際に、もの・ひと・ことと関わる中で感じる感動が、自身の行動や学びを大きく変えていく機会となります。「ふるさと学習」を柱にしなが、友と関わり、地域と関わり、そこで学んだことを日常生活の中に戻していくことの大切さを感じた一年間でした。見慣れた地域の素材に深く関わり、なぜ・どうしてから始める課題に向かう中で中間の行動や考えに触れるなど、実際に体験することを大事にした教育活動を継続していきます。									
		②豊かさ:お互いに認め合中で自分に自信を持ち、友とのかかわり合いを大切に、共に学習や生活を楽しむことができる子ども											
		③学び:自ら見つけた課題を、友と考えをつなぎからめ合いながら追究し、学びの楽しさや高まりを実感できる子ども											
		今年度の重点目標		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策			
		1	一人ひとりの個性を生かし、多様性を包み込む学級・学校づくり (自主・豊かさ)	子どもたちが互いの話に耳を傾け、認め合えるよう、授業を中心に話し合う場面をつくってきた。積極的に関わり合う場面が増えてきている。		○				互いの良さを認め、弱さを受け入れて、それぞれの個性を伸ばしていける学級づくり学校づくりを継続していきます。学校だけでなく、地域や保護者、関係機関との連携を強化して、子どもたちのニーズに応えていけるようにしていきます。			
		2	「学びの主体者」としての子どもを育てる「ふるさと学習」の充実 (学び)	各学年、学級の子どもの思いを大切にしながら、もの・ひと・こととふれ合う場を大事に進めてきた。自分の身の回りに目を向ける姿が増え、自分のこととして考える様子が見られる。			○			地域の素材を見つけた新たな取り組みにチャレンジすることができました。身の回りの素材に向ける子どもたちの視野を広げるための仕掛けを考えること。子どもたちの思いが出发点となり、学習が進んでいくよう努めます。			
対象	評価項目	評価の観点		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策			
重点目標	1 自主・豊かさ	成功経験の累積		困難にぶつかったとき、仲間とともに解決していかれる適切な支援を繰り返しながら、乗り越える成功経験を積ませたか。		失敗しても大丈夫という雰囲気づくりを大事に学級づくりに取り組んできた。自分たちで話し合い、解決していく姿が増え、自信につながってきている。		○				子どもたちが自身や友だちの良さに目を向ける機会を大事にしていくこと。また、失敗しても大丈夫という環境づくりを進め、困ったとき、うまくいかなかったときに、どう解決しての良かったかを考え合えるようにします。	
		挨拶の充実		日常的な声かけや、児童会活動の充実により、挨拶の良さを自覚させながら、実践と評価を繰り返し、積極的に挨拶が飛び交う学校を目指したか。		教室内での返事は当たり前で、校内でも同様の姿は見られる。良い姿を紹介したり、教師が率先して姿を見せるようにし、声は出なくても会釈を返すなどの姿も増えてきている。			○			声に出して元気に挨拶できる子、挨拶を意識はしていてもなかなか声に出せない子と、様子は様々です。素通ししていた子が会釈をするようになるなど、子どもたちの小さな変容を大事にしなが、指導を継続します。	
		人権同和教育の日常化		一人一人を大切に、違いを認め合い、共に学びあうよさが実感できる人権同和教育を日常化したか。		気になったことなど、機を逃さずにその場で指導することを心がけてきた。意識と行動の差を自覚できる場を大事にし、互いの良さを認め合う姿も多く見られる。			○			ブロック人権同和教育研修を軸に、全校態勢で取り組むことができました。相談時間やなかよし時間など、互いのことや身の回りのことに意識を向ける機会を中心に、指導を重ねていきます。	
		思いやりの心の育成		児童を肯定的に捉え、温かい言動で接しながら、思いやりの心が全体に広がるように取り組めたか。		学級で一つの目標に向かって取り組む場では、お互いに声をかけ合い、失敗もカバーして、目標にみんまでたり着こうとする姿が見られた。		○				温かな言葉がけ、言葉づかいを心がけます。子どもたちの優しさや思いやりが見られた場を大事に、それを広げていくこと。その時互いに感じた温かい気持ち共有できる学校づくりを進めます。	
		研修を生かした実践		特別支援教育の研修や、児童理解の研修を全職員で積み重ね、研修を生かした実践に取り組めたか。		多くの先生方の児童支援についての話を聞き、自身の学級経営に取り入れてきた。専科の先生との連絡も密に取り合い、子どもたちの様子を共有して、チームで支援にあたることができた。		○				個別の支援計画の作成・見直し研修、事例検討会、デジ教科書の利用など研修の機会を確保し、学ぶことができました。研修を定期的に位置づけて、児童理解とスキルの向上に努めてまいります。	
	2 学び	「ふるさと学習」の推進		「ふるさと学習」を通して、探究する楽しさを体験させながら、粘り強く追究する意識を育て、やり遂げた成果に自信を持たせたか。		学年・学級の子どもの思いを大事に聞きながら進めてきた。自分たちの目的のために計画を立て、見つけた課題をどう解決するかを、子どもたちが真剣に考える姿がたくさん見られた。		○				子どもたちの思いを大事にしなが、担任としての願いをどのように伝えていかを考えていきます。活動をどのようにスタートしていくのか、途中でどのような投げかけをして深めていくのか、各学年学級での取り組みの大事にしたポイントを学ぶ機会も取り入れます。	
		児童会活動、係活動、朝マラソン、靴揃えなどへの取り組み		自分から進んで、児童会活動や係活動、朝マラソンや靴揃えに取り組めるよう工夫して指導することができたか。		子どもたちが自分たちで考えて取り組む係活動を大事にして進めてきた。仕事の内容を検討し、提案・実行していくことを継続し、積極的に学級に関わろうとする姿が増えた。			○			コロナが落ち着き、様々な活動が戻ってきたことで、児童会の活動についても検討すべき課題が見えてきてので検討をしていきます。また、伝統的に行ってきた縦割り班での取り組みについても、その意義や意図を職員で再確認して取り組んでまいります。	
		学習習慣の形成		腰骨を立て、目・耳・心で話を聴き合う、学習習慣と姿勢づくりを進めることができたか。		年間通しての姿勢指導と関連付けながら、しっかりと聴くことを日々意識しながら進めてきた。			○			「腰骨を立てる」という言葉を子どもたちの中に位置付けていきたい。一つの柱として、子どもたちの中にも位置付けていよう工夫し、目・耳・心で聴き合うことを大事に指導していきます。	
		学習課題の共有		学習課題を共有し、課題解決に向けて、友の考えを聴き自分の考えが伝わるように話す場面を授業の中に設定したか。		授業の課題をきちんと共有することを大事にしたことで、自分の考えを伝えたい、異なった意見を聞きたいという思いにつながった。算数は課題解決に向けて取り組みやすく、授業づくりのベースとして大事にした。		○				学習問題から課題へつながるしなやかさを意識して授業づくりを継続したい。困った、試してみたい子どもたちが思っ進むような授業づくり目指して教材研究を進めます。また、教師が互いの授業から学んでいく研修を進めます。	
		話し合い活動の充実		ペア学習や小グループによるテーマ追究の話し合い活動を設け、共に学ぶ楽しさに触れさせながら、ともに考えを練り上げ、高める力を育むことを通して、学力向上に努めたか。		いつでも話し合っって良いということに加えて、考えを広げた方がよい場面では、話し合いを進められるようしなやかさを。話したいと思うような課題の設定や解決したいと思うような導入などを大事にしたい。共に学ぶ意識は向上を感じる。			○			話し合う場面は授業の中に位置づけ、子どもたちも抵抗なく意見交換することができるようになってきています。その上で、何を話すのか、話すことで考えの幅が広がったり、自分の考えを見返したりできるような機会にしていけるようにします。話したい・聴きたいと思っ取り組めるような「しなやか」を大事に、授業づくりに取り組みます。	

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった